

《参考資料2》

熊本市内にある小・中学校知的障害特別支援学級及び知的障害者を教育する特別支援学校に在籍する児童生徒の保護者への意向調査 — 集計結果報告 —



令和2年2月20日 社会福祉法人 熊本市手をつなぐ育成会

1 はじめに

今般、熊本市手をつなぐ育成会では、熊本市の小・中学校の知的障害学級及び知的障害者を教育する特別支援学校に就学中の子どもさんの保護者など、若い親世代の方々がどんなことに困り、どんなことを望んでおられるか等のニーズを把握し、今後の育成会活動に反映させたいとの趣旨で、保護者への意向調査を実施しました。

本調査に快くご協力をいただきました保護者、小学校・中学校・特別支援学校の校長先生をはじめ担任の先生方、小・中学校校長会、熊本市教育委員会の各位には心から感謝を申し上げます。

2 調査の目的

現在就学中の児童生徒の保護者など、若い親世代の方がどんなことに困り、どんなことを望んでいるか等の意向を把握し、今後の市育成会活動に反映させる。

3 調査の方法

(1) 調査対象

- ・以下の学校の児童生徒の保護者

熊本市立小・中学校の知的障害特別支援学級	……………	833人（推定）
特別支援学校（4校）	……	451人
計		1,284人

(2) 調査対象校

- ①知的障害特別支援学校を設置する熊本市立小・中学校（小学校：92校、中学校：41校、計133校）
- ②熊本市内にある知的障害特別支援学校（熊本県立熊本支援学校・熊本県立はばたき高等支援学校・熊本市立平成さくら支援学校・熊本大学教育学部附属特別支援学校の計4校）

(3) 実施時期

- ①依頼 9月中旬 ※回答期間 9月下旬～10月下旬
- ②回収 10月末
- ③集計 12月～2月

(4) 実施方法

- ・小・中学校は、各校長会を通じて、各学校に配付。特別支援学級の担任を通じて、保護者に配付。
- ・特別支援学校は、直接、校長に依頼。各担任を通じて、保護者に配付。
- ・記入は無記名での回答。記入後の回収は、以下の方法で実施。

①調査票の配付	担任 → 保護者
②調査票記入(保護者)	
③調査票の回収 (提出)	① 担任 ← 保護者 (※小封筒に入れて封をして提出) ② 小封筒のまま、大封筒かゆうパックライトに入れて育成会返送、または、育成会が回収に伺う

※児童養護施設等に入所の児童生徒は、施設の職員に記入をお願いした。

4 回収の結果

○表 1 回収数及び回収率

学 校	在籍数	回収数	回収率	
小 学 校	613	362	59%	
中 学 校	220	132	61%	
特別支援学校	小学部	105	77	73%
	中学部	92	52	57%
	高等部	254	154	61%
	※全	451	283	63%
※所属不明		4		
集 計	1,284	782	61%	

・どの校種からも、おおむね6割程度のご回答をいただいた。

5 集計の結果

○表 2-1 回答者

項 目	小学校	中学校	支援学校
母親	90%	88%	90%
父親	5%	5%	5%
祖父母	2%	2%	1%
その他家族	0%	0%	1%
家族以外	2%	4%	2%

・どの校種でも、母親が90%近くを回答。

○表 2-2 療育手帳の等級の分類

項 目	小学校	中学校	特別支援学校			
			全	小学部	中学部	高等部
A 1	3%	0%	19%	24%	30%	12%
A 2	6%	4%	25%	35%	26%	19%
B 1	17%	10%	27%	27%	26%	27%
B 2	44%	79%	29%	13%	18%	41%
持っていない	27%	7%	0%	0%	0%	0%
申請中	3%	0%	0%	0%	0%	0%

※特別支援学校の「持っていない」「申請中」がパーセントでは0だが、実数では各1人。

- ・小学校では、B1、B2の人が6割と多かったが、A1、A2の人もいた。また、療育手帳を持っていない人が27%いた。
- ・中学校では、B2とB1で約9割。A1は0%、A2は4%と少ない。
- ・特別支援学校では、小・中学校に比べると、A1からB2までまんべんなく在籍するが、中学校からの進学者が多い高等部では、B2が41%と多くなっている。

(1) 育児、教育などで、現在困っていることや悩んでいること

○表3-1 困っていることがある

項 目	小学校	中学校	特別支援学校			
			全	小学部	中学部	高等部
ある	63%	62%	68%	86%	69%	59%
ない	37%	38%	32%	14%	31%	41%

○表3-2 悩んでいることがある

項 目	小学校	中学校	特別支援学校			
			全	小学部	中学部	高等部
ある	78%	77%	76%	79%	77%	74%
ない	22%	23%	24%	21%	23%	26%

・校種を問わず、全体の6～7割が障がいのある子どもさんの育児や教育で困ったり悩んだりしている。

○表3-3 困ったり悩んだりしていること

※複数回答

項 目	小学校	中学校	特別支援学校			
			全	小学部	中学部	高等部
就学（学校、学級選び）	19%	23%	9%	10%	17%	5%
進学（中学校（中学部）、高校（高等部）	48%	59%	16%	26%	46%	0%
学校卒業後の進路	38%	56%	62%	43%	62%	72%
育 児（※）	56%	41%	60%	81%	60%	50%
しつけ	20%	17%	14%	27%	12%	8%
排泄、着替え、食事等、身辺処理	13%	9%	26%	53%	35%	9%
行動面	31%	23%	33%	57%	31%	21%
コミュニケーション	36%	26%	37%	38%	40%	35%
発達面の心配（※）	59%	66%	39%	62%	33%	29%
発達の遅れ	27%	17%	18%	30%	15%	12%
ことばの遅れ	20%	8%	20%	36%	17%	12%
排泄の自立の遅れ	10%	5%	13%	32%	13%	4%
学力の遅れ	40%	38%	18%	26%	17%	14%
行動面の心配（問題行動も含めて）（※）	56%	50%	56%	71%	44%	53%
多動	15%	9%	14%	27%	13%	7%
こだわり	22%	12%	24%	32%	25%	20%
パニック・かんしゃく	23%	14%	21%	29%	21%	16%
自傷・他害行為	7%	5%	12%	19%	12%	8%
暴言・大声など	19%	14%	14%	22%	12%	10%
飛び出し・衝動的な行動	14%	9%	19%	32%	17%	12%
不登校、登校しぶり	8%	9%	4%	1%	0%	7%
睡眠（昼夜逆転、不眠など）	6%	13%	9%	12%	4%	8%
異性への関心	4%	9%	7%	3%	8%	9%
非行	0%	0%	0%	0%	0%	0%
その他	3%	9%	4%	6%	2%	4%
教育や学校生活（※）	27%	28%	5%	12%	2%	3%
学校の教育方針	3%	4%	3%	1%	0%	5%
担任の指導方針や方法	6%	5%	2%	1%	4%	3%
学習活動、内容	10%	13%	5%	8%	6%	3%
担任や学校との関係	5%	4%	2%	0%	2%	3%
子どもどうしのトラブル	10%	12%	5%	6%	2%	6%
保護者間のトラブル	1%	1%	1%	0%	4%	0%
学校に行きたがらない	5%	5%	3%	1%	0%	5%
いじめや仲間はずれ	2%	1%	0%	1%	0%	0%

家族との関係（※）	14%	18%	12%	10%	15%	12%
親子関係	7%	9%	5%	4%	6%	6%
兄弟関係	10%	9%	11%	9%	17%	10%
家族（祖父母など）関係	2%	3%	3%	5%	4%	2%
障がいの理解・受け入れ（受容）（※）	13%	19%	14%	16%	15%	12%
親ごさん自身	7%	11%	7%	6%	10%	7%
兄弟	7%	8%	8%	6%	13%	7%
家族	6%	6%	6%	8%	6%	6%
地域や社会の理解	8%	10%	13%	25%	15%	6%
地域との関係	5%	6%	8%	12%	12%	5%
福祉サービスの利用	6%	7%	13%	16%	13%	11%
年金の申請・受給	2%	8%	13%	12%	13%	14%
経済的な支援制度、就学支援	8%	14%	11%	13%	4%	12%
その他	1%	0%	2%	3%	2%	1%

（※）の欄は、下位項目を選択した人の比率

- ・困っていることや悩んでいることは、多岐にわたっている。
- ・「育児」や「発達面の心配」、「行動面の心配」等、子ども本人に関わる事項は、校種に関係なく40～66%と高い。
- ・「進学」や「学校卒業後の進路」のことも多くの保護者が悩んでいる。将来への見通しが持てない不安が大きいことが推測される。
- ・「教育や学校生活」に関することも、「担任の指導方針や方法」、「学習内容」、「子どもどうしのトラブル」等も多く挙げられているが、特別支援学校は5%と少ない。
- ・数値は高くないものの、「家族との関係」や「障がいの理解・受け入れ（受容）」等も選択されていた。
- ・その他、「地域や社会の理解」「地域との関係」で困ったり悩んだりする人もいた。
- ・「福祉サービスの利用」「年金の申請・受給」「経済的な支援制度、就学支援」も多い。

（2）障がいのある子どもさんの将来への不安や心配

○表4-1 将来への不安や心配

項 目	小学校	中学校	特別支援学校			
			全	小学部	中学部	高等部
大いにある	54%	59%	64%	61%	64%	65%
少しある	41%	37%	33%	36%	32%	33%
あまりない	4%	3%	2%	3%	4%	1%
ない	1%	1%	1%	1%	0%	1%

- ・校種を問わず、「大いにある」「少しある」を合わせると、9割以上の方が、将来への不安を持っている。

○表4-2 不安に感じたり心配すること

※複数回答

項 目	小学校	中学校	特別支援学校			
			全	小学部	中学部	高等部
就学（学校、学級選び）	30%	22%	9%	9%	25%	3%
進学（中学校（中学部）、高校（高等部）など）	68%	54%	18%	34%	43%	1%
学校卒業後の進路や生活、社会自立	82%	90%	85%	84%	90%	85%
親亡き後のこと	59%	68%	85%	87%	84%	86%
その他のこと	3%	4%	1%	0%	2%	1%

- ・どの校種でも、「学校卒業後の進路や生活、社会自立」が最多。
- ・小学校では、「進学（中学校（中学部）、高校（高等部）」が次に多く、特別支援学校では、「親亡き後のこと」も最も多く、中学校でも多い。

(3) 周りに、障がいのある子どもさんのことで気軽に話したり相談できる方がいるか

○表5-1 周囲に気軽に相談できる人

項 目	小学校	中学校	特別支援学校			
			全	小学部	中学部	高等部
相談相手がいる	88%	87%	86%	88%	91%	83%
相談相手がない	12%	13%	14%	12%	9%	17%

- ・「相談相手がいる」と回答が、どの校種でも9割近い。
- ・一方で、「相談相手はいない」と回答した保護者が12～14%いるのが非常に気になるところ。

○表5-2 話したり相談できる方

※複数回答

項 目	小学校	中学校	特別支援学校			
			全	小学部	中学部	高等部
家族	66%	65%	64%	70%	71%	58%
親戚	13%	13%	11%	16%	10%	10%
友人	36%	34%	33%	29%	44%	32%
近所の人	6%	3%	3%	0%	10%	3%
同じ学校や学級の保護者	35%	30%	41%	47%	40%	38%
他の障がいのある子どもの保護者	32%	37%	33%	35%	31%	32%
学校の担任の先生など	51%	47%	42%	53%	46%	34%
学校の管理職ほか	2%	2%	1%	3%	4%	0%
親の会などの仲間の保護者	4%	4%	6%	5%	8%	5%
育成会	1%	0%	1%	3%	0%	1%
親会以外の障がい児者の団体	1%	0%	2%	3%	2%	1%
相談支援事業所の相談員	28%	23%	28%	38%	31%	21%
知的障がい者相談員	2%	3%	3%	6%	2%	1%
福祉サービスの職員	41%	22%	40%	56%	52%	28%
その他	6%	5%	2%	3%	2%	3%

- ・どの校種でも「家族」が最多。
- ・「友人」、「同じ学校の保護者」のほか、「他の障がいのある子どもの保護者」など、同じ障がいのある子どもを持つ保護者が身近な相談相手であることがうかがわれる。
- ・最も身近な相談相手であってほしい「学校の担任の先生など」は、小学校が51%、中学校47%、特別支援学校では42%で、特に高等部では34%だった。
複数回答可であるにも拘わらず、半数が身近な相談相手と考えていないという結果。
- ・一方、「相談支援事業所の相談員」（※正式には、「相談支援専門員」）や「福祉サービスの職員」（※就学中の保護者が身近に接するのは、殆どが放課後等デイサービスか）が、前者が、小学校28%、中学校23%、特別支援学校28%、後者が、それぞれ、41%、22%、40%とかなり割合が高い。
特に特別支援学校では、「福祉サービスの職員」が、「学校の担任の先生など」とほぼ同率で身近な相談相手に挙げられている。
相談支援事業所と放課後等デイサービス事業所の現状を見たとき、果たして保護者の相談相手となり得るのか・なり得ているのだろうか。

(4) 障がいのある子どもさんのことで必要な情報は得られているか

○表6-1 障害のある子どもの必要な情報

項 目	小学校	中学校	特別支援学校			
			全	小学部	中学部	高等部
十分得られている	10%	5%	8%	7%	9%	9%
ある程度得られている	62%	60%	64%	63%	71%	63%
あまり得られていない	24%	31%	25%	31%	20%	23%
得られていない	4%	4%	3%	0%	0%	5%

・「十分得られている」「ある程度得られている」が、それぞれ、小学校で72%、中学校で65%、特別支援学校で72%を占める。

・一方で、「得られていない」3~4%、「あまり得られていない」が、小学校と特別支援学校で28%、中学校で35%と、約3割が必要な情報が得られていないのが気になるところ。

○表6-2 どんな情報を得たいか

※複数回答

項 目	小学校	中学校	特別支援学校			
			全	小学部	中学部	高等部
我が子に直接関係する子育てなど、より身近な情報	47%	28%	36%	61%	47%	20%
困ったり悩んだりしていることに関する具体的な情報	39%	41%	39%	53%	38%	32%
相談できる機関や場、団体などに関する情報	30%	33%	30%	31%	36%	28%
教育・療育、福祉サービスなどの利用に関する情報	42%	41%	50%	57%	51%	46%
教育・療育、福祉サービスなどの新しい制度に関する情報	44%	42%	56%	56%	56%	55%
その他	1%	1%	1%	1%	0%	1%

・校種を問わず、得たい情報が全般にわたっている。

○表6-3 教育や療育、福祉サービスなどの情報の入手先

※複数回答

項 目	小学校	中学校	特別支援学校			
			全	小学部	中学部	高等部
学校の担任や進路指導の先生など	62%	55%	60%	63%	58%	60%
同じ学校や学級の保護者	22%	23%	39%	43%	53%	33%
他の障がいのある子どもの保護者	25%	30%	27%	33%	27%	24%
親の会などの仲間の保護者	4%	3%	9%	13%	13%	5%
育成会	1%	0%	1%	0%	2%	1%
親会以外の障がい児者の団体	1%	0%	2%	4%	2%	0%
市や県の障がい部局	9%	18%	10%	8%	11%	10%
相談支援事業所の相談員	29%	20%	36%	47%	42%	29%
知的障がい者相談員	3%	5%	3%	7%	2%	1%
福祉サービスの職員	35%	16%	29%	46%	36%	19%
インターネットなど	30%	24%	27%	36%	29%	22%
SNS（ツイッターやLINE等）	6%	5%	6%	11%	9%	3%
講演会・セミナー	8%	3%	13%	15%	29%	7%
図書、資料	5%	1%	6%	6%	9%	5%
その他	4%	5%	3%	3%	0%	3%

- ・(3) 同様、ここでも、本来、一番の情報入手先であるはずの「学校の担任や進路指導の先生など」が、小学校で62%、中学校55%、特別支援学校で60%にとどまる。
- ・一方、「相談支援事業所の相談員」、「福祉サービスの職員」は、前者が、小学校29%、中学校20%、特別支援学校36%、後者が、それぞれ、35%、16%、29%と比率が高い。

(3)でも述べたが、この両者が、現時点でどの程度の適確な情報を持ち、保護者に提供できているのだろうか。

- ・保護者にとっては、「同じ学校」のほか、「他の障がいのある子ども」など、同じ障がいのある子どもを持つ親から多くの情報を得ていることがうかがわれる。
- ・これ以外に、「インターネット」や「講演会・セミナー」、「図書、資料」など、さまざまな情報入手先がある。

他の入手先の補助的手段としてこれらがある場合も多いが、直接誰にもつなずにインターネット等だけを入手手段としている人も結構いた。自分の子どもに関する本当に必要な情報が得られているのだろうか。

(5) 熊本市手をつなぐ育成会について

○表7-1 市育成会を知っているか。

項 目	小学校	中学校	特別支援学校			
			全	小学部	中学部	高等部
よく知っている	1%	2%	7%	3%	8%	8%
少し知っている	15%	14%	23%	20%	33%	22%
あまり知らない	21%	22%	38%	46%	38%	34%
知らない	63%	63%	32%	31%	21%	36%

○表7-2 市育成会の活動内容で知っていること

※複数回答

項 目	小学校	中学校	特別支援学校			
			全	小学部	中学部	高等部
陳情や要望書の提出などの運動	5%	4%	12%	11%	19%	10%
障がい児・者理解の啓発活動	7%	6%	10%	9%	10%	11%
会員相互の活動	4%	6%	6%	8%	6%	5%
つなごう会（本人活動）	3%	5%	6%	7%	6%	6%
各種委員会（親さんの活動）	1%	1%	4%	5%	4%	3%
事業所の運営	7%	18%	10%	15%	13%	7%
「しょうぶの里」	9%	13%	20%	24%	23%	16%
「第二ぎんなん作業所」	5%	5%	15%	16%	17%	14%
「子ども育ちの家『て・い・く』」	4%	2%	5%	4%	8%	4%
グループホーム「ぎんなん」・「千金甲」 ・「あいりす」	2%	3%	6%	7%	6%	5%
地域生活支援センター「ぎんなん」	6%	5%	8%	7%	13%	7%

○表7-3 市育成会の活動への関心

項 目	小学校	中学校	特別支援学校			
			全	小学部	中学部	高等部
関心がある	12%	15%	15%	15%	17%	14%
少し関心がある	55%	54%	57%	63%	63%	53%
あまり関心はない	27%	28%	24%	21%	20%	28%
関心はない	6%	3%	3%	1%	0%	5%

- ・「知らない」「あまり知らない」が、小学校で84%、中学校で85%、特別支援学校でも70%に上る一方、「関心がある」「少し関心がある」が、小学校で67%、中学校で69%、特別支援学校で72%と意外と高い。

《育成会を知っていることと、関心との相関関係》

- ・どの校種でも、「よく知っている」「少し知っている」だけでなく、「知らない」「あまり知らない」との回答者の中にも、「関心がある」の回答の人が多くいることが注目される。

表 7-4 小学校 (※実数)

	関心がある	少し関心がある	あまり関心はない	関心はない	※未記入	計
よく知っている	3				1	4
少し知っている	4	29	11	2	4	50
あまり知らない	8	39	16	1	6	70
知らない	23	104	56	17	13	213
計	38	172	83	20	24	337

表 7-5 中学校 (※実数)

	関心がある	少し関心がある	あまり関心はない	関心はない	※未記入	計
よく知っている	2					2
少し知っている	2	10	1		3	16
あまり知らない	0	20	2	0	4	26
知らない	11	27	26	3	7	74
計	15	57	29	3		118

表 7-6 特別支援学校 (※実数)

	関心がある	少し関心がある	あまり関心はない	関心はない	※未記入	計
よく知っている	7	7	3	0	1	18
少し知っている	5	40	12	2	5	64
あまり知らない	12	54	30		7	103
知らない	13	43	17	6	9	88
計	37	144	62	8	22	273

- ・育成会のことを「知らない」と回答した人の中には、今までそういう会があることを知らなかった、ぜひ参加したいという積極的な意見のものもあった。
- ・ただし、意向調査票に「ご不明な点がございましたら、……」と連絡先を明記していたものの、残念ながら現在まで1件の問い合わせや相談もないことも、現状を物語る事実と言えるかも知れない。

[お断り]

- ・意向調査の《文章記述》部分については、割愛しています。
ご覧になりたい方は、熊本市手をつなぐ育成会のホームページをご覧ください。
(ホーム(トップページ)の「TOPIC欄」R2.3.3付け)